

環境活動レポート

<初版>

平成28年1月5日発行

平成26年11月 1日 ~ 平成27年10月30日

有限会社 トヨタ

環境方針

・基本理念

有限会社トヨタは、廃棄物の処理及びリサイクルを通じて、環境負荷の低減に努め、地域や社会へ配慮していきます。

・行動方針

- ・ 廃棄物の適正処理を行うと共に、廃棄物の再資源化を推進します。
- ・ 環境関連の法令を順守します。
- ・ 節水、資源及びエネルギーの削減に努めます。
- ・ 使用している化学物質の適正な管理を行います。
- ・ グリーン購入に努めます。
- ・ 社内環境教育の実施、情報の掲示等により、社員の意識向上及び外部への理解と協力を図ります。
- ・ 協力企業と連携し、更なる環境保全に努めます。

本行動方針は開示し、継続的に改善を行っていきます。

2015年 8月 1日

有限会社 トヨタ

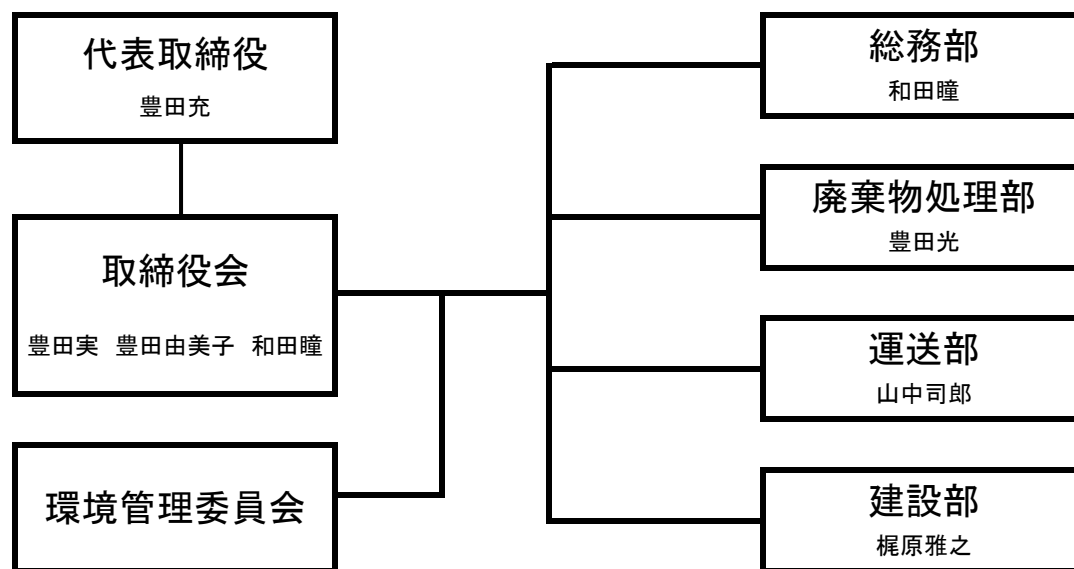
代表取締役 豊田 充

事業概要

・会社概要

会社名	有限会社 トヨタ
代表者氏名	代表取締役 豊田 充
所在地	熊本県八代市新港町二丁目4-14
連絡先	TEL 0965-31-3122 FAX 0965-31-3123
資本金	3,000,000円
売上高	141,336千円(平成26年度)
事業内容 (認証登録範囲)	廃棄物処理業、建設業、解体業、運送業
設立年月日	平成15年2月25日
事業年度	11月～10月
産廃中間処理量	2,653t(平成26年度)
従業員数	17名

・組織図(環境への取組み)



環境管理委員会

環境管理責任者 豊田啓勤 (連絡先:0965-31-3122)

委員会メンバー 豊田充 豊田実 豊田由美子 和田瞳 豊田光 山中司郎 梶原雅之

各部門の主な取組みについては、「環境活動計画の取組み判定表」による。

・事業内容

【産業廃棄物処分】 第4320110419号 許可日:平成16年3月31日 期限:平成31年3月30日

破碎・選別	4.8t/日	紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、廃プラスチック類
選別	280t/日	紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、廃プラスチック類
焼却1	1.5768t/日	紙くず、木くず、繊維くず
焼却2	5.52t/日(その他)	紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、動物の死体、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類

【特別管理産業廃棄物処分】 第4370110419号 許可日:平成26年3月20日 期限:平成31年3月19日

焼却	5.52t/日(その他)	廃油、感染性廃棄物
----	--------------	-----------

【産業廃棄物収集運搬】 第4300110419号 許可日:平成18年3月31日 期限:平成28年3月30日

熊本県	紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、動物の死体、ばいじん、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、13号廃棄物、動物系固形不要物
-----	--

【特別管理産業廃棄物収集運搬】 第4350110419号 許可日:平成27年6月12日 期限:平成32年6月11日

熊本県	廃油、廃酸、廃アルカリ、感染性廃棄物、廃石綿等
-----	-------------------------

【一般廃棄物処分】 許可(処)第28-4号 期限:平成30年3月31日

八代市	紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、動物の死体、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類
-----	--

【一般廃棄物収集運搬】 許可(収)第28-3号 期限:平成30年3月31日

八代市	事業活動に伴い発生した一般廃棄物(ごみ)及び一般家庭等から臨時に排出される粗大ごみ等の一般廃棄物(ごみ)
-----	--

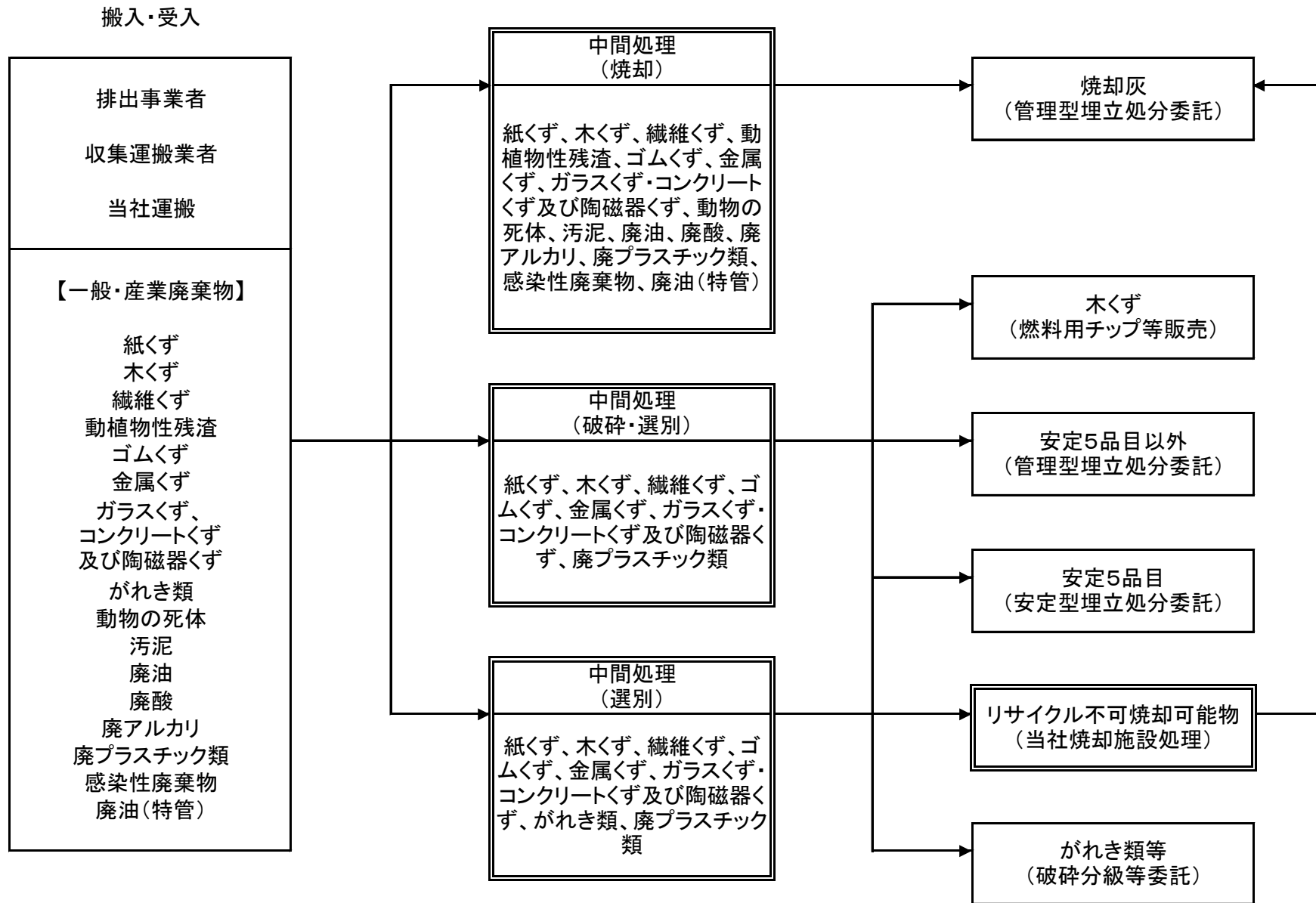
【建設業】 知事(般-25)第15690号 期限:平成31年2月28日

土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業、ほ装工事業、しゅんせつ工事業、水道施設工事業
--

【運送業】 九運貨物 第 593 号

【有限会社トヨタ 処理工程図】

 が自社工場での処理



収集運搬車両一覧表

No.	自動車登録番号	車両の名称	寸法	型式	最大積載量	備考
1	熊本480こ6152	キャブオーバー	339×147×179	LE-DA63T	350 kg	
2	熊本100せ2739	キャブオーバー	616×201×268	KC-FE638E	3,000 kg	
3	熊本100せ6589	キャブオーバー	792×222×302	P-FK417JK	3,000 kg	
4	熊本400て3167	ダンプ	469×169×197	KC-WGEAD	2,000 kg	
5	熊本100せ5115	ダンプ	534×222×247	U-FC3WCAD	3,250 kg	
6	熊本100か6853	ダンプ	773×249×302	KC-FV415JD	10,000 kg	
7	熊本100か4	ダンプ	772×249×315	KC-CXZ81K2D	9,100 kg	
8	熊本100か760	ダンプ	774×249×318	KL-CXZ81K3	8,900 kg	
9	熊本100か7899	ダンプ	768×249×341	QKG-FV50VX	9,000 kg	
10	熊本800あ2726	塵芥車	525×190×232	KC-FE537B	2,750 kg	
11	熊本100せ8589	保冷車	483×169×270	KC-LY211	1,500 kg	

環境活動計画の取組み判定

○:良くできた △:あまりできなかった ×:できなかった

活動内容	判定 H27.10.29	判定 H28.1.30	判定 H28.4.30	判定 H28.7.30
電気使用量の削減				
毎月の電気使用量の把握を行う	○			
昼休みの消灯	○			
室内空調の適正化(夏26度、冬21度)	△			
OA器機の退社時の電源OFF若しくは省電力設定	○			
作業効率の向上	△			
適切な運転管理を行う	△			
化石燃料使用量の削減				
毎月の化石燃料使用量の把握を行う	×			
エコドライブの実施	○			
燃費の把握を行う	△			
効率的なルート走行を行う	△			
アイドリングストップを行う	○			
一般廃棄物の削減				
コピー用紙の両面使用	○			
使用済み封筒の再利用	○			
ゴミの分別の徹底化	○			
水使用量の削減				
毎月の水使用量の把握を行う	×			
こまめに蛇口の開閉を行う	○			
洗い物はまとめて行う	○			
散水方法の効率化	○			
洗車は最低限にする	○			
再資源化の推進				
毎月のリサイクル率の把握を行う	×			
グリーン購入				
グリーン購入の推進	△			
その他				
社内環境教育の実施	○			
情報の掲示等による、社員の意識向上を図る	○			
協力企業と連携し、更なる環境保全に努める	○			
建設業から出る産業廃棄物は再資源化を行う業者へ委託する	○			

平成27年度もこの計画に基づき取り組む。また、デマンド管理システムの導入により、消費電力の削減を図る。

※年4回環境管理責任者及び環境管理委員会メンバーが達成状況を確認し判定、環境管理責任者が目標の達成状況と突合し、評価する。

※上記の計画を推進し、習慣化を図り、目標の達成状況を勘案して計画の変更を検討する。

環境目標

平成26年度～30年度の環境目標を下記の通り設定し、環境保全に取り組めます。

1. 消費電力の把握と削減及び節水を図る。

- ・消費電力と化石燃料の把握を行い、前年比1%以上の省電力化を図る。
- ・前年比1%以上の節水を図る。
- ・温室効果ガスの排出量を前年比1%以上の削減に努める。

2. 前年比1%以上のリサイクル率の向上を図る。

3. 目標

平成25年度を基準とし、目標を設定する。

ただし、状況に応じて見直しを行う。

	平成25年度 (実績)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
電力量(Kwh)	195,612	193,656	191,719	189,802	187,904	186,025
化石燃料(MJ)	4,389,978	4,346,078	4,302,617	4,259,591	4,216,995	4,174,825
温室効果ガス(kg-CO2)	421,448	417,234	413,061	408,931	404,841	400,793
水使用量(m3)	3,833	3,795	3,757	3,719	3,682	3,645
リサイクル率	—	50.0%	50.5%	51.0%	51.5%	52.0%
減容化率	平成26年度、平成27年度は把握に努め、その後目標値を設定する。					
グリーン購入	コピー用紙及びトイレトペーパーをグリーン購入対象商品とする。					

※リサイクル率に関しては平成25年度の把握が出来ていなかったため、目標値を50%と設定する。

平成26年度実績及び評価

有限会社トヨタは、廃棄物の処理を主な業務としています。

環境への負荷が考えられるものとして、処理施設の稼働による粉塵、振動・騒音及びエネルギー消費による二酸化炭素の排出が主なものとして考えられます。

以下の目標を立て、環境への配慮を行いました。

取組期間は3ヶ月間でしたが、年度末にあたり、1年間の実績を把握し記載しました。

【環境保全に向けた取組みと実績】

	平成25年度 (実績)	平成26年度 (目標)	平成26年度 (実績)	結果	判定
電力量(Kwh)	195,612	193,656	266,520	138%	×
化石燃料(MJ)	4,389,978	4,346,078	3,342,174	77%	○
温室効果ガス(kg-CO2)	421,448	417,234	392,467	94%	○
水使用量(m3)	3,833	3,795	4,859	128%	×
リサイクル率	—	50.0%	53.9%	108%	○

購入電力の排出係数は九州電力(平成25年度)の係数0.613を用いました。

【評価】

電力量及び水使用量は設備投資により増加したものの、重機等に使用する燃料を検討した結果、使用化石燃料を減少を図ることが出来た。

平成26年度は3ヶ月の取組みであったが、平成27年度はこのままの計画を継続し、1年の取組みの効果に期待する。

今後も、検討を重ね、更なる環境負荷軽減に努めるようにする。

環境関連法令等の順守状況

当社のチェックリストにより、当社に適用される環境関連法規の順守状況を確認した結果、違反及び訴訟等はありませんでした。

代表者による評価と見通し

平成26年度に行った設備投資により、当社の処理数量は増加傾向にある。この状況を鑑みると、環境への更なる考慮及び対策が必要となってくる。

前年比の温室効果ガスの排出量は減少したものの、内訳を見ると電気使用量や水使用量は増加している。今後、処理量当たりの使用量の把握や、デマンド管理システムの設置による電気使用量の把握と削減に努め、全社員での環境マネジメントが必須と考えられる。

項目	所見
目標について	達成できている。今後も継続して取り組む。
方針について	当面このままの方針に沿って取り組む。
組織について	変更なく取り組む。

平成27年12月25日

有限会社 トヨタ

代表取締役 豊田 充